

周南市大田原自然の家 検討概要

1 施設設置の経緯及び目的

- ・昭和46年 徳山市立中須小学校大田原分校の休校
財団法人徳山青年館理事が中心となって、施設の設置計画を提案
- ・昭和57年 必要最小限の改修工事後、下記を目的に開所。

【目的】 集団宿泊訓練及び野外活動等を通じて心身ともに健全な青少年の育成を図る。

- 【事業】 (1) 小学校・中学校の児童・生徒の宿泊訓練及び野外活動を行うこと
(2) 青少年及び社会教育関係団体等の研修活動を行うこと
(3) 設置目的の達成に必要と認める業務

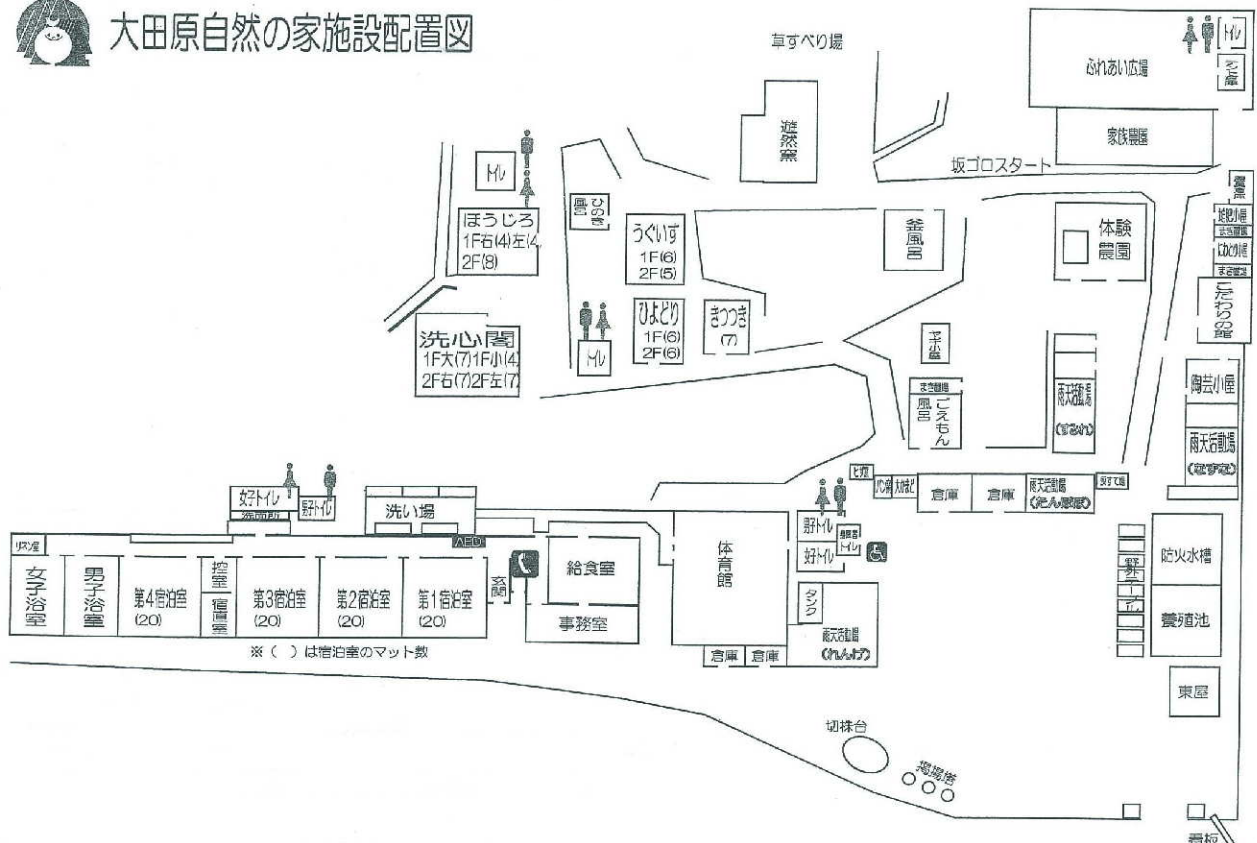
2 施設概要

- ・敷地面積23,308㎡（東京ドームの約半分）内に、以下の施設を有する。

- | | |
|---------------------------|---------|
| ◆宿泊棟 定員20人×4室 | ◆体育館 |
| ◆ログハウス 5棟（70人程度） | ◆雨天活動場 |
| ◆東屋 | ◆体験農園 |
| ◆風呂（浴室、ごえもん風呂、釜風呂、ひのき風呂）等 | ◆ふれあい広場 |



大田原自然の家施設配置図





〈宿泊棟〉

※いろいろがある部屋。
宿泊時は畳をかぶせて
使用。



〈体育館〉



〈雨天活動場〉



〈ログハウス:うぐいす山荘〉



〈ログハウス:きつつき山荘〉



〈かま風呂〉



〈ごえもん風呂外観〉



〈草すべり場〉



〈ちびっこ農園〉



〈やぎ小屋〉



〈田んぼ〉

◆利用料金

区 分		宿 泊	宿泊しない
青少年	市内の小・中学生	120 円	無 料
	市外の小・中学生	220 円	70 円
	その他 (乳幼児は対象外)	310 円	150 円
その他の者		470 円	310 円

※「青少年」とは、満 25 歳以下

◆使用料の減免

〈減額：50%減額〉

- (1)市以外の官公庁が使用
- (2)市内の社会教育団体が社会教育活動に使用
- (3)その他教育委員会が特に必要と認めた場合
〈免 除〉
- (1)市及び教育委員会が主催・共催での使用
- (2)指定管理者が行政目的で使用
- (3)市内学校（19歳未満）が使用
- (4)身体障害者手帳等を所持する者が使用

◆施設設備

ログハウス	5 棟
風呂設備	5 箇所（野外は 3 箇所）
トイレ	5 箇所（野外は 4 箇所）
窯	4 箇所（ピザや陶芸等）
雨天活動場	4 棟

◆食事提供

給食運営協会により、給食または食材を提供。

朝 食	420 円
昼 食	530 円
夕 食	650 円

◆休所日

月曜日（祝日の場合はその翌日）
12月29日から翌年1月3日まで

◆使用時間

1 日使用⇒午前 9 時から午後 5 時
宿泊使用⇒午前 9 時から
退所日の午後 4 時まで

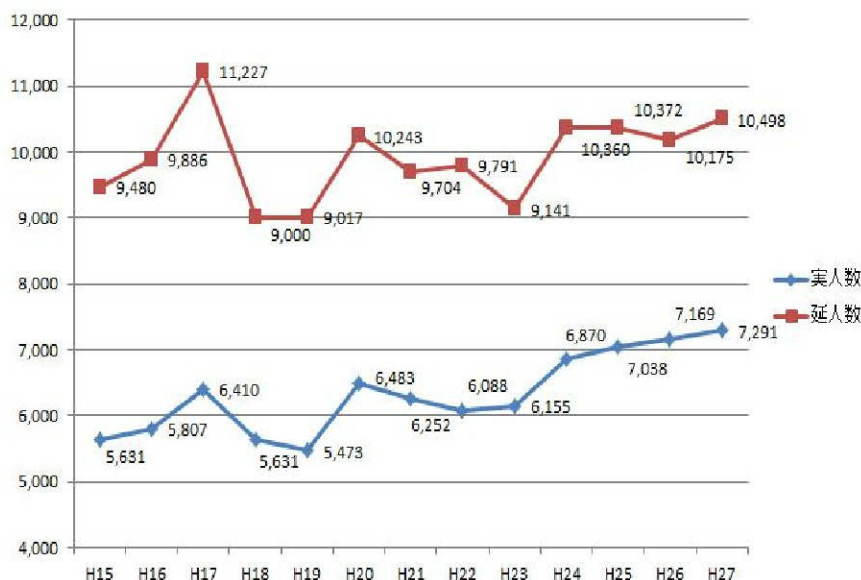
◆宿泊施設概要

	部 屋	定 員	最大許容人数
宿泊棟	第 1 宿泊室	20 人	80 人
	第 2 宿泊室	20 人	
	第 3 宿泊室	20 人	
	第 4 宿泊室	20 人	
ログハウス	きつつき	7 人	71 人
	うぐいす	1F：6 人	
		2F：5 人	
	ひよどり	1F：6 人	
		2F：6 人	
	洗心閣	1F：7 人(大) 4 人(小)	
		2F：7 人(右) 7 人(左)	
	ほおじろ	1F：4 人(右) 4 人(左)	
		2F：8 人	

3 施設の現状と課題

(1)利用者実績 ※主催事業には、ボランティアスタッフも含む

		23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
小学校	実人数	319 人	287 人	302 人	363 人	279 人
	延人数	546 人	546 人	578 人	703 人	542 人
	団体数	13 団体	11 団体	15 団体	13 団体	8 団体
中学校	実人数	0 人	36 人	40 人	0 人	52 人
	延人数	0 人	106 人	80 人	0 人	114 人
	団体数	0 団体	1 団体	1 団体	0 団体	4 団体
その他 (学校関係)	実人数	404 人	359 人	215 人	365 人	275 人
	延人数	869 人	713 人	526 人	733 人	649 人
	団体数	20 団体	11 団体	7 団体	11 団体	9 団体
少年団体	実人数	617 人	805 人	861 人	561 人	607 人
	延人数	1,209 人	1,430 人	1,387 人	904 人	1,146 人
	団体数	18 団体	20 団体	19 団体	18 団体	17 団体
その他 (団体関係)	実人数	19 人	0 人	75 人	0 人	49 人
	延人数	35 人	0 人	131 人	0 人	65 人
	団体数	2 団体	0 団体	3 団体	0 団体	5 団体
主催事業	実人数	3,127 人	3,349 人	3,597 人	3,766 人	3,998 人
	延人数	4,338 人	4,572 人	4,863 人	4,872 人	5,212 人
	団体数	89 団体	111 団体	109 団体	117 団体	134 団体
その他 (出張指導等)	実人数	1,669 人	2,034 人	1,948 人	2,114 人	2,031 人
	延人数	2,144 人	2,993 人	2,807 人	2,963 人	2,770 人
	団体数	120 団体	142 団体	107 団体	106 団体	106 団体
総計	実人数	6,155 人	6,870 人	7,038 人	7,169 人	7,291 人
	延人数	9,141 人	10,360 人	10,372 人	10,175 人	10,498 人
	団体数	262 団体	296 団体	261 団体	265 団体	283 団体



◆利用延人数も実人数も、また、利用団体数も徐々に増加。

◆主催事業への参加人数も増加。

◆平成27年度は、中学校4団体の利用があり増加。

しかし、小・中学校の利用団体数は年度によってばらつきがある。

(2) 施設を支えるボランティア

①主催事業を支えるボランティア ※ は地元住民が主を示す

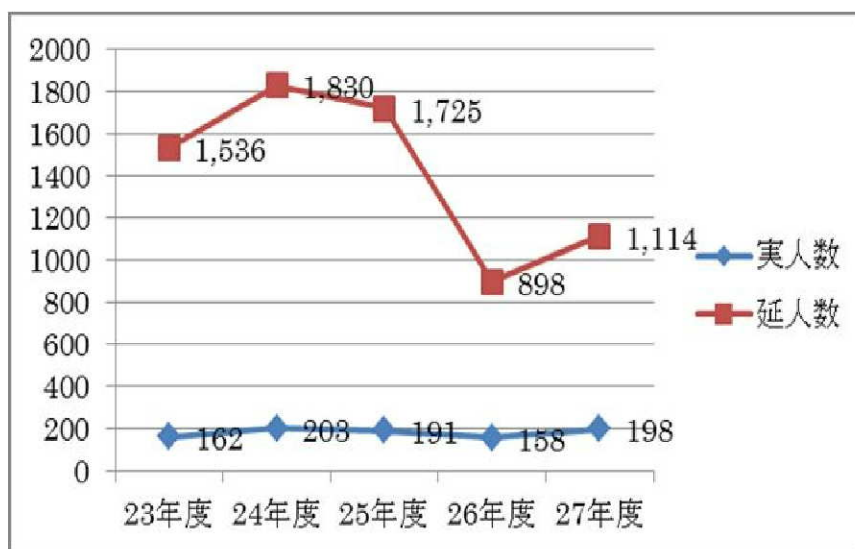
団体・グループ名	参加事業数	実人数	延人数
山口大学「トム・ソーヤーズ」	27 事業	44 人	498 人
山口県立大学	19 事業	15 人	111 人
山口学芸大学	15 事業	17 人	158 人
大田原自然の家ジュニアカウンセラーグループ「キュービーズ」	9 事業	19 人	62 人
陶芸グループ「遊然の会」	2 事業	8 人	8 人
木工グループ「手作りこだわり人」	2 事業	7 人	7 人
大地を耕し作物をつくる親と子のつどい OB グループ	9 事業	2 人	17 人
おおたばら どろんこむら実行委員会	5 事業	7 人	10 人
周南天文同好会	2 事業	6 人	12 人
地元住人	3 事業	16 人	28 人
その他	14 事業	20 人	40 人
計 (11 団体の協力)	107 事業	161 人	951 人

②施設整備・農作業関係を支えるボランティア

団体・グループ名	参加事業数	実人数	延人数
食農支援ボランティア	14 事業	16 人	96 人
おおたばら応援団	1 事業	11 人	11 人
青年ボランティア・その他	2 事業	3 人	3 人
施設整備ボランティア	8 事業	7 人	53 人
計	25 事業	37 人	163 人

③支えるボランティアの推移

	実人数	延人数
23 年度	162 人	1,536 人
24 年度	203 人	1,830 人
25 年度	191 人	1,725 人
26 年度	158 人	898 人
27 年度	198 人	1,114 人



このほか、主催事業への協力団体として、地元住民による『棚田清流の会』が尽力。

(3)施設の稼働率(平成27年度)

※ 使用部屋数で集計 部屋使用数÷(1×年間稼働日)＝稼働率

施 設		全 体		平 日		土 日 祝	
		日 中	夜 間	日 中	夜 間	日 中	夜 間
体 育 館		40.6%	20.0%	24.7%	13.6%	73.5%	33.3%
宿 泊 棟 及 び ロ グ ハ ウ ス	洗心閣	26.9%	17.2%	16.5%	11.1%	48.7%	29.9%
	ほおじろ	24.2%	15.3%	15.2%	9.9%	42.7%	26.5%
	ひよどり	23.1%	13.3%	13.2%	7.8%	43.6%	24.8%
	うぐいす	19.4%	11.7%	9.9%	5.8%	39.3%	23.9%
	きつつき	21.7%	13.9%	14.0%	9.5%	37.6%	23.1%
	宿泊棟4	34.4%	16.3%	21.2%	11.1%	62.0%	27.1%
	宿泊全体	28.1%	15.2%	17.1%	9.8%	51.1%	26.3%

(4)課 題

①施設の老朽化

宿泊棟 昭和27年 3月建築(築64年)
 体育館 昭和38年12月建築(築53年)

修繕等の維持経費がかかることから、建替えや改修等の検討が必要。

②土砂災害特別警戒区域の指定

宿泊棟と体育館が指定
 グラウンドを除くその他の部分も土砂災害警戒区域に指定。



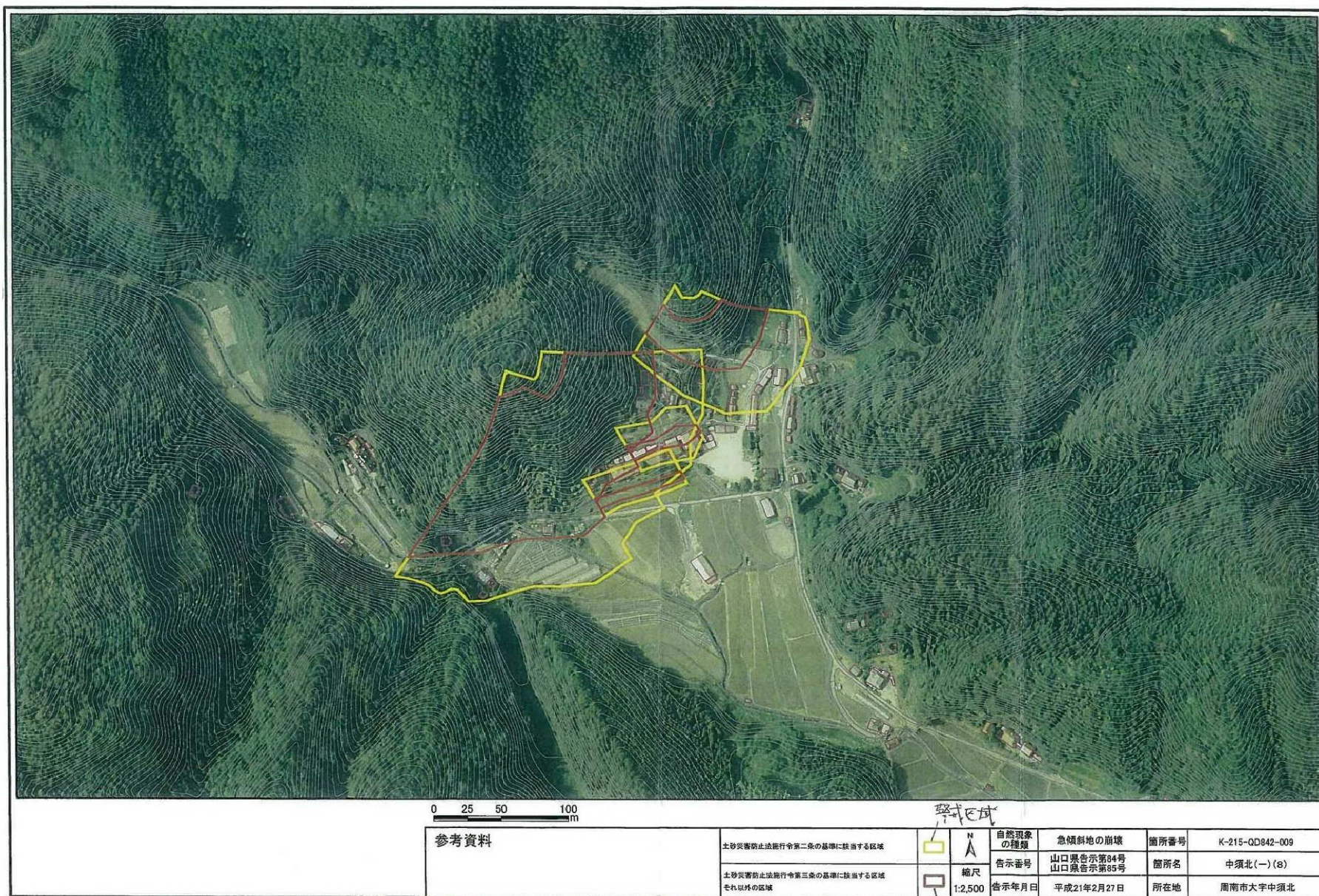
利用者の安心・安全の確保が必要。

③市道の安全性

国道434号線からの市道(約3km)の幅員は狭く、離合も困難。
 平成22年の大雨では、土砂崩れにより約1年半の間通行止めとなった。



自然災害時の孤立化、帰所時の土砂崩れへの巻き込まれ事故等も懸念されることから、利用者の安心・安全の確保が必要。



警戒区域

特別警戒区域

4 議会が実施した行政評価に関する決議

【平成 25 年度】

議会が実施した行政評価に関する決議	決議に対する今後の対応
「年間 1 万人の利用者があり事業の継続が望ましいが、施設が老朽化している上に背後地は土砂災害警戒区域という現状がある。また、年間延べ 1, 8 0 0 人以上のボランティア・団体が運営に関わっている次世代青少年の育成施設であることから、コスト面だけに捉われずに、より絆を大切にし、充実した運営体制が望まれる側面もある。 <u>体験交流施設としての意義、安心・安全の視点から施設としての市の方向性を早急に示すべきである。</u> 」	「大田原地区の特性を生かした事業内容は、多くの利用者からも高い評価を得ており、青少年にとって非常に貴重な施設であると認識している。ボランティア団体等の協力のもと施設の長寿命化及び機能の継続に努め、機能が続く限りは事業を実施したい。しかしながら、施設の背後地が土砂災害警戒区域という現状であることから、 <u>安心安全面において市の方向性をボランティア、協力団体、協力者との連携を図りながら 3 年程度を目途に検討を進める。</u> 」

【平成 28 年度】

議会が実施した行政評価に関する決議	決議に対する今後の対応
「青少年の健全育成や地域活性化に大きな役割を果たしており、利用者数も 1 万人を超える施設で事業の継続が望ましい。しかしながら、土砂災害特別警戒区域にある施設の老朽化、施設までの道幅の狭い道路の安全性など、課題もある。 <u>安心安全の視点から、施設のあり方について早急に方針を示し、対応すべきである。</u> 」	「青少年の育成に資する集団宿泊訓練及び野外活動事業は継続する。ただし、安心・安全を担保する必要があることから、 <u>利用者、大田原自然の家運営協議会及び市議会等での意見を踏まえ、平成 2 8 年度末に整備方針を決定したい。</u> 」

5 意見の聴取等

次のとおり意見聴取等を実施した。

(1) 周南市大田原自然の家運営協議会

※周南市大田原自然の家条例に基づき設置する運営協議会において協議。大田原自然の家の方向性については、平成 2 7 年度以降、計 3 回開催して検討。

協議会委員の意見では、一部の施設が土砂災害特別警戒区域にある立地であることや施設の老朽化、施設に続く幅員の狭い市道等、利用者への安心・安全の課題はあるものの、日々の生活の中で自然体験を学ぶことが難しい社会において、大田原

自然の家の活動は重要であること、また、施設ボランティアや大学生・中高生のボランティアが多数関わっており、これまで築いてきた人材を失うこととなるため、現在地での継続実施を望む意見が多く出された。

他に、休廃校となっている小・中学校の活用はできないかとの意見もあった。

(2)利用者へのアンケート調査

- ・実施期間：平成28年10月21日から11月30日までの間
- ・対象：施設利用者（乳幼児、小・中学生、高校生を除く）
- ・回答数：152人

「青少年の野外教育施設の必要性」は、144人（94.7%）が必要と考えている。

また、施設の設置場所として重要視するもの（3つ選択）は、次のとおり。

①魅力的なプログラムの充実	135人
②自然災害への心配があまりないこと	95人
③交通の利便性がよいこと	75人
④大自然を十分に生かせる環境	69人
⑤現在地	40人

(3)ボランティアへの聴き取り

- ・実施日：平成28年12月4日
- ・対象：9人（山大生2人、県立大生3人、大人4人）

現在の施設への愛着があり現地での建替えを望む意見と、子どもたちの命を預かることから安心・安全のために他地域への移転もやむなし、という意見の大きく二つに分かれた。

(4)おおたばら応援団への聴き取り

※「おおたばら応援団」は、これまでの長い間、地域とともに継続して大田原自然の家を支え、また、周辺の環境整備に協力してきた団体。

これまで、地域とともに大田原自然の家を支えてきたが、地区の過疎化や高齢化が進んでおり、これまでどおりの地域の支援が望めない状況にあることから、「おおたばら応援団」のみでは大田原自然の家を支えきれなくなりつつあるとのことであった。

こうしたことから、大田原自然の家への強い愛着はあるものの、土砂災害特別警戒区域の立地や施設の老朽化、幅員の狭い市道等の状況を含めて考えると、利用者の安心・安全の観点から、非常に残念ではあるが安心・安全が確保できる他地域への移転もやむを得ないのではないかと、との意見があった。

6 今後の施設の方向性

◎想定した選択肢

次のとおり大きく3つのカテゴリーに分類し、併せて6つの選択肢を基本に検討。

A：現施設の活用

選択肢①：宿泊棟及び体育館を敷地内のグラウンドに建替え

選択肢②：宿泊棟及び体育館を地区内の別の場所に建替え

B：他地域への移転等

選択肢③：他地域の公共施設等到大田原自然の家の事業を移転

選択肢④：他地域の類似する公共施設等到大田原自然の家の事業を統合

C：事業の廃止等

選択肢⑤：施設の廃止及び大田原自然の家の事業を民間に移管

選択肢⑥：施設及び大田原自然の家の事業を廃止

これらの選択肢をもとに検討を進め、平成28年度末までには施設分類別計画を策定することとしている。

《参考資料》

◆大田原自然の家 主催事業一覧（平成27年度）

①子ども対象事業（9種 延1,000人 平均応募率182.0%）

事業名	期日・期間	対 象	実人数	延人数	応募者 (定員)	応募率
春のわんぱく村	5/4～5/6 (2泊3日)	小学1年 ～6年	59	177	71 (60)	118.3%
夏のわんぱく村	8/27～28 (1泊2日)	小学1年 ～6年	53	106	113 (60)	188.3%
冬のわんぱく村	1/4～1/6 (2泊3日)	小学1年 ～6年	45	135	70 (50)	175.0%
ワイルドにいこうぜ！ 夏の子ども村	8/5～8/7 (2泊3日)	小学3年 ～5年	42	126	99 (40)	247.5%
色いろ！味あぢ！ 秋の子ども村	11/7～11/8 (1泊2日)	小学1年 ～3年	52	104	101 (40)	202.5%
忍ニン！修行でござる！春の 子ども村	3/28～3/30 (2泊3日)	小学4年 ～6年	33	99	36 (40)	90.0%
のびのびいきいき 自然児キャンプ	8/14～20 (6泊7日)	小学5年 ～中学2年	18	126	35 (16)	218.8%
50kmを歩く学び・交流の旅	12/25～27 (2泊3日)	小学4年 ～6年	36	108	37 (30)	123.3%
周南学びの体験隊 ～棚田のおいしいお米編～	10/10～11 (1泊2日)	小学4年 ～6年	13	19	13 (20)	65.0%

②指導者・ボランティア養成事業（6種 延108人 平均応募率54.7% ※会議・研修除く）

事業名	期日・期間	対 象	実人数	延人数	応募者 (定員)	応募率
学びの里シャトルファーム	4/18～11/22 (年4回)	中学生 ・高校生	18	18	8 (30)	26.7%
スキルアップセミナー	2/21	ボランティア活動 に携わる人	15	15	15 (30)	50.0%
キャンプカウンセラー研修会	9/5	キャンプカウ ンセラー経験者	26	26	26 (30)	86.7%
キャンプカウンセラーリーダー冬 バリューパック	2/24～26 (2泊3日)	キャンプカウ ンセラー経験者	8	24	8 (7)	114.3%
ステップアップキャンプ	3/19～20 (1泊2日)	ボランティア活 動に関心がある人	14	25	7 (20)	35.0%
学生ボランティア養成 会議・研修	43回			882		